

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/20

ギリシャ支援に一定合意も不透明感はある

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	ギリシャ新内閣信任決議に注目 予想レンジ: 113.40 ~ 116.80 円	2 - 3
ユーロ/ドル	➡	ギリシャ支援、大枠合意・各論先送り 予想レンジ: 1.4100 ~ 1.4520 ドル	4 - 5
ポンド/円	➡	ユーロ/円の方向感に注意 予想レンジ: 128.00 ~ 132.00 円	6 - 7
ポンド/ドル	➡	ドル主導の動きに 予想レンジ: 1.6000 ~ 1.6400 ドル	8 - 9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 6/13~17までの主な推移



<p>6/14 Tuesday</p>	<p>中国5月消費者物価指数は前年比+5.5%と高い物価の伸びが示されたものの、一部で懸念されていたほどの大幅な上昇とはならなかった事から、引き締め懸念が後退。これを好感して上海総合株価指数が上昇すると、アジア・欧州の株式市場でも株高が進みユーロ/円は116円台を回復した。その後、米5月小売売上高が予想ほど減少しなかった事を受けて、米国景気減速に対する過度の懸念が和らぎNYダウ平均株価が160ドル超の反発となるとユーロ/円は116.69円の高値を付けた。(①)</p>
<p>6/15 Wednesday</p>	<p>前日のNY時間終盤に、独ショイブレ財務相が「(この日行われた臨時ユーロ圏財務相会合で)ギリシャ支援についての進展はなかった」と述べた事や、格付け会社ムーディーズがギリシャへの投資を理由に仏大手3行の格付けを引き下げ方向で見直すと発表した事を受けてアジア時間からユーロ安が進行。その後、ギリシャのパンダレウ首相が「緊縮財政政策の推進に向けて統一内閣を形成するため、辞任を申し出た」と発表すると同国の財政再建に向けた取り組みへの懸念が強まりユーロ安が加速した。(②)</p>
<p>6/16 Thursday</p>	<p>オランダ中銀のウエリンク総裁が「(現行7000億ユーロの)欧州救済基金を2倍にする必要があるかもしれない」などと述べたと伝わった事がきっかけとなり、ユーロ売りが強まった。さらにその後、欧州連合(EU)・独銀行筋の話として「ドイツはギリシャ追加支援をめぐる合意期限を9月に遅らせることを望む」との報道が伝わるとユーロ/円は113.50円の安値を付けた。(③)</p>
<p>6/17 Friday</p>	<p>独・仏首脳会談後の会見で独メルケル首相が「ギリシャ問題での投資家の役割については欧州中央銀行(ECB)と共に取り組む意向」などと述べると、投資家負担を強制することに反対しているECBにドイツが譲歩する姿勢を示したとしてユーロ/円は114.79円まで上昇した。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は113.50円～116.69円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.5%の下落（ユーロ安・円高）となった。ユーロ圏の財務相らは19日に行われた臨時会合で、ギリシャの債務問題で必要となる資金は民間および政府から供与されるほか、民間部門による自発的なギリシャ国債の乗り換え（ロールオーバー）を歓迎するとの認識で一致した。ギリシャ支援策については、ドイツの譲歩もあって大枠合意となったものの、ユーロ圏財務相会合では、ギリシャ政府が緊縮財政計画を進め、2015年までに民営化により500億ユーロを確保し、構造改革を実施しない限りはギリシャの債務は持続不可能との見解も示されており、追加支援の発動については不透明感も残る。このためユーロが大幅に上値を伸ばす事も考えにくく、21日に予定されているギリシャ議会による新内閣の信任決議や、23-24日に行われる欧州連合（EU）首脳会議を睨みつつ、もみ合う展開が予想される。（神田）

（予想レンジ：113.40～116.80円）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 6/17週足引値：114.47円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合い推移となっている。先週のユーロ/円は6/16に安値113.50円を見たが、下値押し の勢いもまずはそこまでとなった。取引値は20日線（115.91円、6/17）、60日線（117.62円、6/17）を下回っているが、200日線（113.82円、6/17）よりも上値に水準にある。ボリンジャーバンドは6/17現在、上限：117.89円～下限：113.93円で、バンド上限はやや上昇、下限は取引値が押し下げる形で下落しており、バンド幅はやや拡大している。下落気味の推移であるが、下値トライをして113円近辺まで見ても、瞬間となる可能性があると考えるところ。上値ポイントは、①117.59円（5/6高値）、②117.88円（6/07高値）、③118.49円（4/29安値）、④121.81円（4/28高値）、下値ポイントは①113.62円（200日線、6/17段階）、②113.39円（5/16安値）、③112.87円（106.40-123.33円の61.8%戻し）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 6/13~17までの主な推移



<p>6/14 Tuesday</p>	<p>中国5月消費者物価指数は前年比+5.5%と高い物価の伸びが示されたものの、一部で懸念されていたほどの大幅な上昇とはならなかった事から、同国の引き締め懸念が後退。これを好感して上海総合株価指数が上昇すると、アジア・欧州の株式市場でも株高が進みユーロ/ドルは上昇した。その後、米5月小売売上高が予想ほど減少しなかった事を受けて、米国景気減速に対する過度の懸念が和らぎNYダウ平均株価が160ドル超の反発となるとユーロ/ドルは1.4498ドルの高値を付けた。(①)</p>
<p>6/15 Wednesday</p>	<p>前日のNY時間終盤に、独ショイブレ財務相が「(この日行われた臨時ユーロ圏財務相会合で)ギリシャ支援についての進展はなかった」と述べた事や、格付け会社ムーディーズがギリシャへの投資を理由に仏大手3行の格付けを引き下げ方向で見直すと発表した事を受けてアジア時間からユーロ安が進行。その後、ギリシャのパンドレウ首相が「緊縮財政政策の推進に向けて統一内閣を形成するため、辞任を申し出た」と発表すると同国の財政再建に向けた取り組みへの懸念が強まりユーロ安が加速した。(②)</p>
<p>6/16 Thursday</p>	<p>オランダ中銀のウェリンク総裁が「(現行7000億ユーロの)欧州救済基金を2倍にする必要があるかもしれない」などと述べた事がきっかけとなり、ユーロ売りが強まった。さらにその後、欧州連合(EU)・独銀行筋の話として「ドイツはギリシャ追加支援をめぐる合意期限を9月に遅らせることを望む」との報道が伝わるとユーロ/ドルは1.4072ドルの安値を付けた。(③)</p>
<p>6/17 Friday</p>	<p>独・仏首脳会談後の会見で独メルケル首相が「ギリシャ問題での投資家の役割については欧州中央銀行(ECB)と共に取り組む意向」などと述べると、投資家負担を強制することに反対しているECBにドイツが譲歩する姿勢を示したとしてユーロが反発。その後、米6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が71.8と事前予想(74.0)を下回った事を受けて、ドル売りが優勢となると、ユーロ/ドルは1.4338ドルまで反発した。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4072～1.4498ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.2%の小幅下落(ユーロ安・ドル高)となった。17日に行われた独・仏首脳会談で、ギリシャ支援に関して独側が譲歩する形となった事、19日のユーロ圏財務相臨時会合でも、民間投資家の自発的乗り換え(ロールオーバー)の支持が確認されるなど、ギリシャ支援策に向けた一定の合意が得られた事から、ユーロは底堅く推移しそうだ。ただし、ギリシャ支援については、引き続き同国の財政健全化策が絶対条件とされており、21日に予定されているギリシャ新内閣の信任決議の議会通過が不可欠だ。このように、ギリシャ支援については、大枠合意、各論先送りの状況であり、上述のギリシャ議会採決や23-24日の欧州連合(EU)首脳会議などの結果にも注目となる。また米国では、21-22日に連邦公開市場委員会(FOMC)が開催され、声明文やバーナンキ議長の会見で、減速懸念が強まっている米国景気の現状にどういった認識を示すのかが注目される。(神田)

(予想レンジ:1.4100～1.4520ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 6/17週足引値:1.4307(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/23安値1.3968⇒6/17高値1.4696となっている。現状の取引値は20日線(1.4351、6/17)、60日線(1.4385、6/17)よりも下値に位置し、200日線(1.3825、6/17)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは6/17現在、上限:1.4729～下限:1.3972であり、ボリンジャーバンドの上限は横這い、下限はやや上向きで推移している。先週は下落の動きを見るも、下値は1.4072までであり、5/16安値1.4047を割り込まずに下値から反転上昇となった。また、90日線(1.4214、6/17時点)を割り込む動きが2日以上連続とならず、反転上昇したのが印象的だ。まずは、上昇に向かいやすいと考えるところ。上値ポイントは①1.4304(5日線、6/17段階)、②1.4384(60日線、6/17段階)、③1.4696(6/07高値)。下値ポイントは①1.4214(90日線、6/17段階)、②1.4072(6/16安値)、③1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)【最重要】である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 6/13~17の主な推移



<p>6/13 Monday</p>	<p>朝方に130.36円の安値を付けたが、その後は安寄りした日経平均株価が下げ幅を圧縮する中でポンド/円は131円前半まで上昇。NY市場に入り、格付け会社S&Pがギリシャを格下げたことを背景にユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れて上げ幅を縮小したが、その後にNYダウ平均が反発すると、ポンド/円は131円台を回復した(①)。</p>
<p>6/14 Tuesday</p>	<p>ポンドは時間外のNYダウ先物の上昇を受け132.25円まで上昇した。夕方に「17時30分発表の英5月消費者物価指数(CPI)は市場予想(前年比:総合+4.5%、コア+3.5%)を下回る」との噂が一部で広がった上、発表されたCPIについて総合は予想通りとなるも、コア指数が+3.3%と予想を下回ったことで131.25円まで値を下げた。しかし、その後にNYダウ先物が堅調に推移したことを受けてポンド/円は反発し、132.30円の高値を付けた(②)。</p>
<p>6/15 Wednesday</p>	<p>ギリシャの債務不安が意識されてユーロ/円が下げると、ポンド/円も連れ安。夕方に一旦ポンドが反発する場面も見られたが、17時30分発表の英5月雇用統計において、失業保険申請件数推移が前月比1.96万件増と予想(0.65万件増)より弱い結果だったことを受けてポンドは一段と値を下げた(③)。さらに、NYダウ平均が軟調な中でポンド/円は130.69円まで下落した。</p>
<p>6/16 Thursday</p>	<p>ギリシャの債務不安を背景にユーロ/円が大きく値を下げるとポンド/円も連れて下落。さらに17時30分発表の英5月小売売上高指数(除自動車燃料)が前月比-1.6%と予想(-0.6%)以上の悪化となると、ポンド売りが加速。一時129.74円まで値を下げた(④)。</p>
<p>6/17 Friday</p>	<p>夕方、NYダウ先物や原油先物の下落を背景にポンド/円は下落。ギリシャ問題に対する不安後退でユーロ/円が反発するとポンド/円も連れて下げ幅を縮小する場面も見られたが、米6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が予想よりも弱い結果となり、ドル/円が一段安になると、ポンド/円も連れ安となり、129.36円の安値をつけた(⑤)。</p>

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週の英国は手掛かり材料に乏しく、大きなイベントはというと、22日に発表されるイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録程度。ただ、MPCで最もタカ派だったセンタンス委員が退任し、中立派と見られるブロードベント氏が新たに委員として就任した影響で、これまでよりもタカ派色が薄れる公算が大きく、早期の利上げ期待は高まりにくい内容となりそうだ。つまり、こうした市場の薄い関心を引き付ける程の内容でもない限り、この議事録は債券相場で材料視はされにくいとみる。

債券絡みの手掛かり材料に乏しい一方、ユーロ/円については引き続きギリシャ問題についての要人発言や観測記事を手掛かりに今週も取引される公算である。今週の債券/円は、ユーロ/円の動きに連れる主体性に乏しい展開になるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 128.00~132.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 6/17週足引値: 129.48円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、200日線(131.89円、6/17)、20日線(131.87円、6/17)、60日線(133.50円、6/17)をいずれも下回って推移している。ボリンジャーバンドは6/17現在、上限: 134.34円~下限: 129.40円であり、バンド上限はやや上昇、下限は取引値が押し下げる方向で下向きに推移している。5/31に高値135.11円を見て以降、下落で推移している。130~133円での揉み合いかと思われたが、いつの間にか130円を割り込んでいる。下落方向に勢いがかかる動きになりかねず、警戒をすべきところ。上値ポイントは①131.89円(200日線、6/17段階)、②133.50円(60日線、6/17段階)、③134.34円(ボリンジャーバンド上限、6/17段階)であり、下値ポイントは①129.40円(ボリンジャーバンド下限、6/17段階)、②129.50円(122.98円-140.00円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 6/13~17の主な推移



6/13 Monday	安寄りした日経平均株価が下げ幅を圧縮する中でポンド/ドルは1.6340ドル台まで上昇。NY市場に入り、格付け会社S&Pがギリシャの格付けを「B」から「CCC」へ引き下げたことを背景にユーロ/ドルが下落するとポンド/ドルも連れて上げ幅を縮小したが、その後にNYダウ平均が反発したことを受け、ポンド/ドル1.6380ドル台まで値を伸ばした(①)。
6/14 Tuesday	ポンドは時間外のNYダウ先物の上昇を受け1.6439ドルの高値をつけた(②)。しかし、夕方に「17時30分発表の英5月消費者物価指数(CPI)は市場予想(前年比:総合+4.5%、コア+3.5%)を下回る」との噂が一部で広がった上、発表されたCPIにおいて総合は予想通りとなったもののコア指数が+3.3%と予想を下回ったことで1.64ドルを割り込んだ。ただ、NYダウ先物がその後も堅調に推移したことを受けてポンド/ドルは小幅に反発する様子も見受けられた。
6/15 Wednesday	ギリシャの債務不安が意識されてユーロ/ドルが下げると、ポンド/ドルも連れ安。夕方に反発する場面も見られたが、17時30分発表の英5月雇用統計において、失業保険申請件数推移が前月比1.96万件増と予想(0.65万件増)より弱い結果だったことを受けてポンドは一段と値を下げた(③)。さらに、NYダウ平均が軟調な中でポンド/ドルは1.6077ドルまで下落した。
6/16 Thursday	ギリシャの債務不安を背景にユーロ/ドルが大きく値を下げるとポンド/ドルも連れて下落。さらに17時30分発表の英5月小売売上高指数(除自動車燃料)が前月比-1.6%と予想(-0.6%)以上の悪化となると、ポンド売りが加速し、一時1.6077ドルまで値を下げた(④)。
6/17 Friday	夕方、独仏首脳会談にてギリシャに対する追加的な金融支援において欧州中銀(ECB)との対立を避け、完全に自発的な形で民間投資家の関与を求めるとの考えを確認すると、ギリシャ支援策が進展するとの期待から、ユーロ高・ドル安が進行。ポンド/ドルはこれに連れ高し、1.6194ドルまで反発した(⑤)が、1.62ドル手前で上値が抑えられた。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週、米国では22日に米連邦公開市場委員会(FOMC)声明が発表される。今回は景気判断に注目が集まっており、前回よりタカ派的な内容ならドル買い要因、前回よりハト派的な内容ならドル売り要因となろう。また、米国についてはこの他にも複数の経済指標発表が予定されており、その都度材料視されるとみる。一方、英国の材料という、22日に発表されるイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録程度。ただ、MPCで最もタカ派だったセントランス委員が退任し、中立派と見られるブロードベント氏が新たに委員として就任した影響で、これまでよりもタカ派色が薄れる公算が大きく、早期の利上げ期待は高まりにくい内容となりそうだ。従って、よほど予想外の内容にならない限り、今回の議事録はポンド相場で材料視はされにくいとみる。今週のポンド/ドル相場は一般的にドル主体の動きとなりそうだ。この他、引き続きギリシャ問題についての要人発言や観測報道を手掛かりにユーロ/ドル相場が大きく動けば、ポンド/ドルも連れて動くと考えられる。波乱要因として押さえておきたい。(ジェルベズ) (予想レンジ:1.6000~1.6400ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 6/17週足引値:1.6182(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/24には1.6056まで下落し、5/31には1.6544まで上昇して後、下落推移となっている。取引値は20日線1.6325(6/17)や60日線1.6327(6/17)を下回ってきている。しかし、200日線1.6016(6/17)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは6/17現在、上限:1.6559~下限:1.6091であり、バンド幅の上限は上向きで、下限は下向きになってきており、取引値がバンド幅下限を押し下げている。5/31高値1.6544から下落で推移しており、1.60~1.64のもみ合いの中で下向きに力がかかっている印象だ。上値ポイントは①1.6325(20日線、6/17段階)、②1.6544(5/31高値)、③1.6559(ボリンジャーバンド上限、6/17段階)、④1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6091(ボリンジャーバンド下限、6/17段階)、②1.6056(5/24安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/20~24)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/20	08:50		(日) 5月通関ベース貿易収支	-4648億円	-7102億円
(月)	14:00		(日) 4月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.8	—
			(日) 4月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	96.4	—
	15:00		(独) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.2%
	17:00		(ユーロ圏) 4月経常収支	-47億EUR	—
6/21	10:30	◎	(豪) RBA議事録	—	—
(火)	17:00		(南ア) 第1四半期経常収支	-170億ZAR	—
	18:00	◎	(独) 6月ZEW景況感調査	3.1	-5.0
	18:00		(ユーロ圏) 6月ZEW景況感調査	13.6	—
	21:30	○	(加) 4月小売売上高 [前月比]	±0.0%	+0.7%
	21:30		(加) 5月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	23:00	○	(米) 5月中古住宅販売件数	505万件	485万件
				(米) 5月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%
6/22	07:45		(NZ) 第1四半期経常収支	-35.20億NZD	—
(水)	17:00		(南ア) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	23:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・速報	-9.8	-10.0
	23:00		(米) 4月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	-0.2%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
6/23	15:00		(スイス) 5月貿易収支	+14.4億CHF	—
(木)	21:30	◎	(米) 6/18までの週の新規失業保険申請件数	41.4万件	—
	23:00	○	(米) 5月新築住宅販売件数	32.3万件	31.0万件
				(米) 5月新築住宅販売件数 [前月比]	+7.3%
6/24	17:00	◎	(独) 6月IFO景況指数	114.2	113.7
(金)	21:30	○	(米) 5月耐久財受注 [前月比]	-3.6%	+1.6%
				(米) 5月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-1.6%
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・確報値 [前期比年率]	+1.8%	+2.0%
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・確報値 [前期比]	+2.2%	+2.2%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com